

## 『学びの概要』（56～75ページに掲載）について

『学びの概要』とは、もともと、平成13年～15年の幼・小連携研究において、幼・小9年間で育てたい「資質・能力や教育内容の概略」を各分野ごとに一覧表にしたものに付けた名称だった。

その後、平成17年～19年の、幼・小・中連携研究において、幼・小・中12年間で、育てたい「資質・能力や教育内容の概略」を示すようになった。plan-do-seeのくりかえしの中で、「構想するカリキュラム」として位置づけ、実践後には、子どもたちの学びを通して「経験したカリキュラム」として見直し、再び『学びの概要』を修正するようになってきた。

この『学びの概要』は、幼・小・中12年間の「構想するカリキュラム」である。小学校は、その12年間のうち、幼・小接続中期から小・中接続前期までの6年間にあたるので、ここに掲げた全てを実施しているわけではないことをご承知いただきたい。

また、ここに掲載した『学びの概要』は、2008年3月31日現在の、幼・小・中開発研究3年次報告書からの転載である。

附属小学校は、今年度から始めた、【「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の内容・方法の研究開発】を通して、「公共性」を育むために、それぞれの学習分野が担う「リテラシー」を少しずつ明らかにしてきた。そこで、今後は『学びの概要』（「シティズンシップ教育」版 \*新名称検討中）を作成し、小学校6年間の教育課程を明らかにしていく考えである。

\*なお、平成17年～19年の幼・小・中連携研究の詳細については、

- 『平成19年度研究開発実施報告書 幼・小・中 12年間の学びの適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの研究開発』
- 『幼・小・中接続期実践 プラン集』
- 『協働して学びを生み出す子どもを育てる2007』
- 『接続期をつくる（東洋館出版社）』

いずれも、お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校著を、参照していただきたい。